

令和7年6月末現在の安全運転管理者選任事業所の交通事故発生状況（千葉県内）

本資料は、安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が千葉県内において業務中又は通勤中の運転により起こした人身事故を分析したものです。

注1：物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含まれていません。

注2：安管事業所の従業員が起こした事故であっても、買物やレジャーなどプライベートな業務中の事故の数値は含まれていません。

注3：他県の安管事業所の従業員が千葉県内で起こした事故の数値が含まれていますが、本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含まれていません。

注4 本文と各グラフの構成率（％）は表記以外の数値を四捨五入しているため、各構成率の和が100％にならない場合があります。

1 安全運転管理者等選任事業所の交通死亡事故の概要（千葉県内）

番号	発生日時	場 所	路線名	第1当事者	第2当事者	通行目的
1	1月8日（水） 13:01	香取郡東庄町 平山	県道	卸売・小売業40代（女） 普貨	70代（男） 自転車【死亡】	業務
2	2月4日（火） 5:23	袖ヶ浦市 蔵波	市道	サービス業60代（男） 軽乗	70代（女） 歩行者【死亡】	通勤
3	4月23日（水） 2:55	成田市 北須賀	国道 464号	宿泊業20代（女） 軽乗【死亡】	40代（男） 大貨	通勤

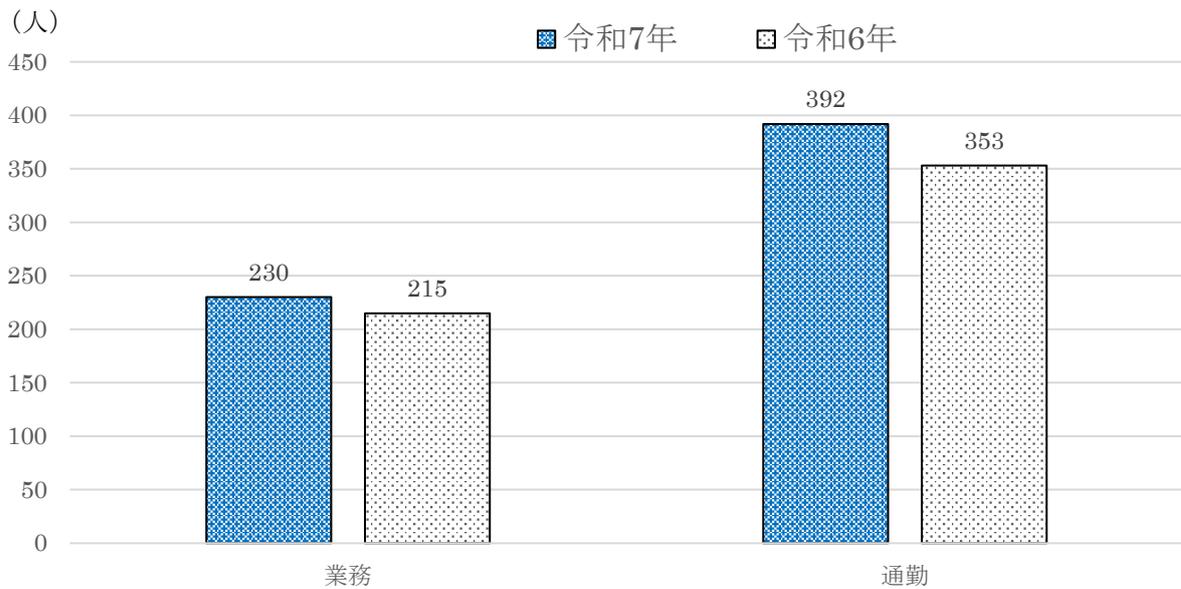
(1) 6月末現在で3件の死亡事故が発生しています。犠牲者の内2人が70歳代の高齢者でした。

2 安全運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況（千葉県内）

		6月中				累 計			
		令和7年	令和6年	増減数	増減率	令和7年	令和6年	増減数	増減率
発生件数		98	81	17	21.0	622	568	54	9.5
昼	日の出1時間後	2	2	0	0.0	33	31	2	6.5
	その他昼	72	61	11	18.0	365	351	14	4.0
	日の入1時間前	5	5	0	0.0	48	39	9	23.1
	昼 計	79	68	11	16.2	446	421	25	5.9
夜	日の入1時間後	7	4	3	75.0	54	36	18	50.0
	その他夜	12	8	4	50.0	107	101	6	5.9
	日の出1時間前	0	1	-1	-100.0	15	10	5	50.0
	夜 計	19	13	6	46.2	176	147	29	19.7
死者数		0	2	-2	-100.0	3	7	-4	-57.1
負傷者数		119	94	25	26.6	739	655	84	12.8
重傷者数		11	15	-4	-26.7	61	80	-19	-23.8
軽傷者数		108	79	29	36.7	678	575	103	17.9

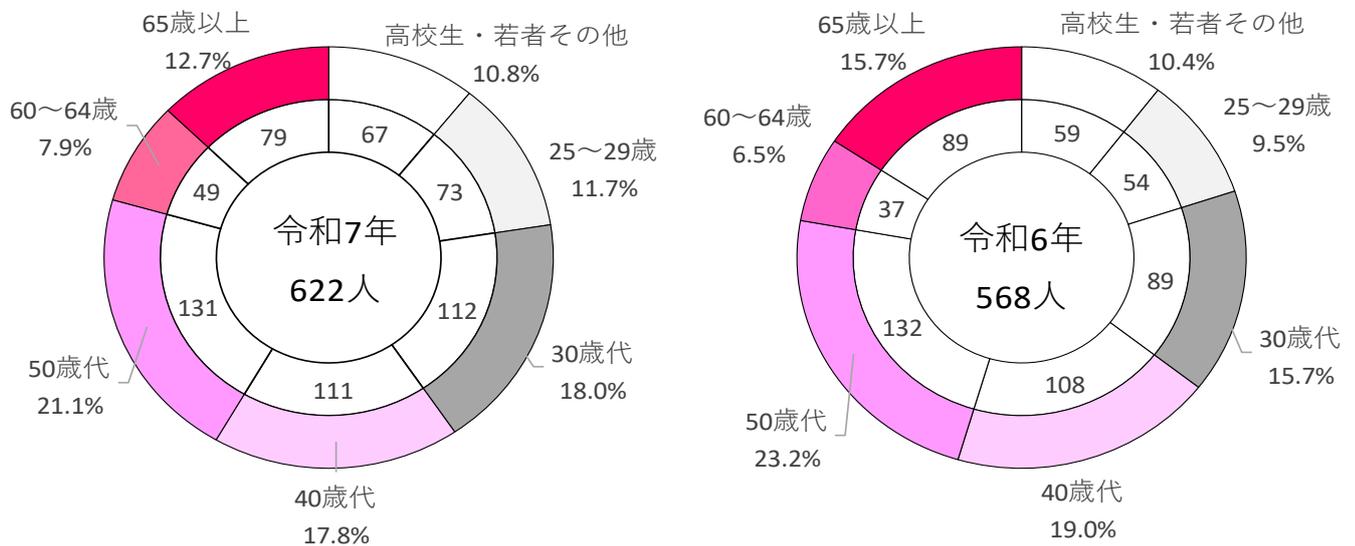
令和7年6月末現在における交通事故は令和6年同期に比べ死者数は4人減少していますが、発生件数が9.5%、負傷者が12.8%増加しています。

3 第1当事者の運行目的別発生状況



運行目的別では業務中より通勤中の事故の方が多くなっています。マイカー通勤中の交通事故であっても、民法上の「使用者責任」により、雇用主等が賠償責任を負うことがあります。通勤中の安全運転管理にも取り組んでください。

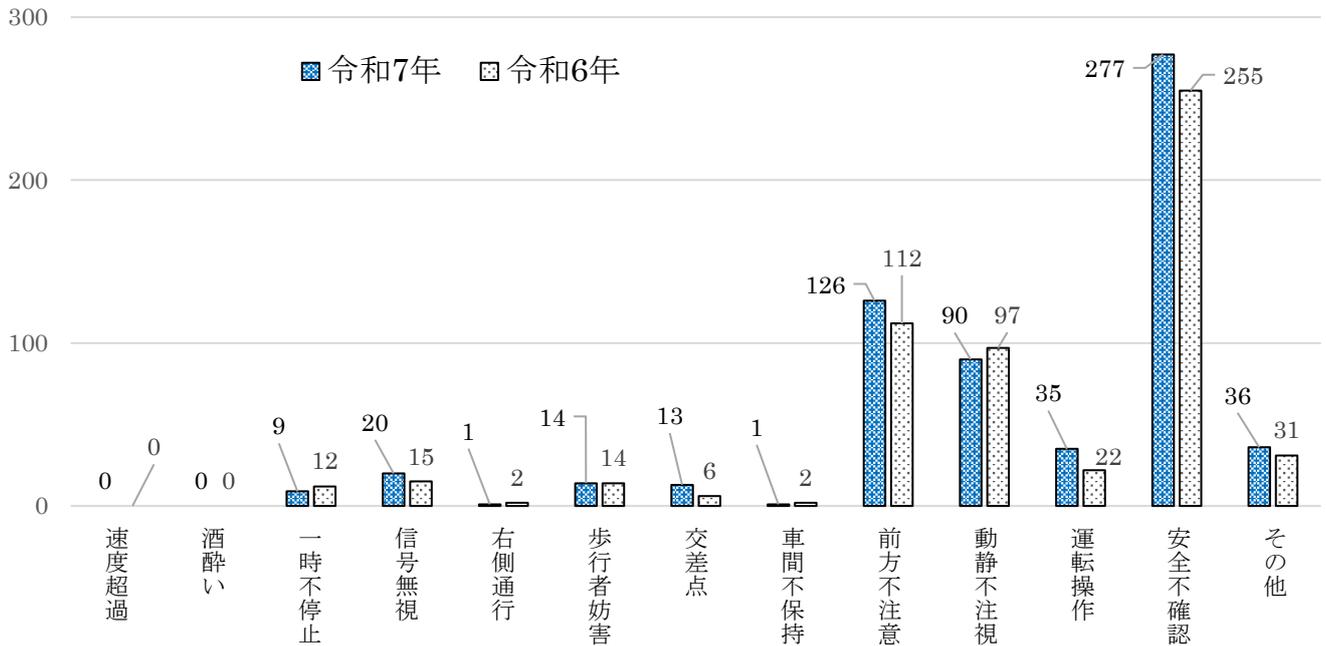
4 第1当事者の年齢層別発生状況



厚生労働省の令和2年の集計によれば66歳以上を雇用している企業は33.4%です。上記グラフの対象となっている事業所の内、高齢者が就業している企業は3分の1程度であることを勘案すると高齢者は事故を起こす確率が高いと考えられます。高齢化社会の進展に伴い、事業所の高齢ドライバーも増加していく傾向にありますので、高齢者の特性を踏まえた事故防止対策を推進してください。

5 第1当事者の違反・原因別発生状況

(件)

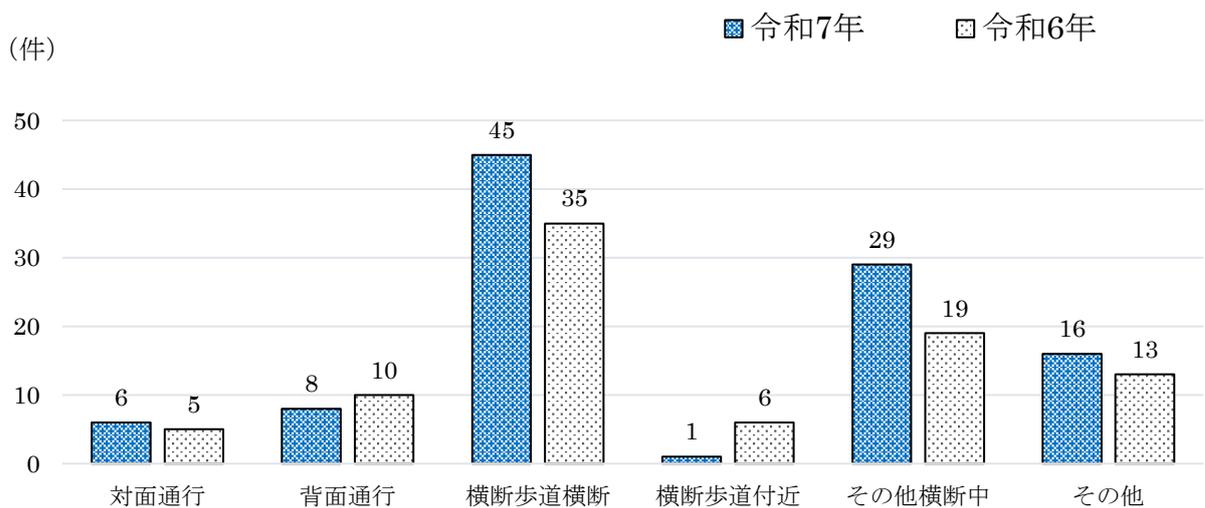


事故原因は、前方不注意、動静不注意、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が計 528 件で事故原因の 84.9%を占めています。

注1：酒気帯び運転は事故原因として計上されていません。また、運行目的が買い物やレジャーなどプライベートな場合は計上されていません。

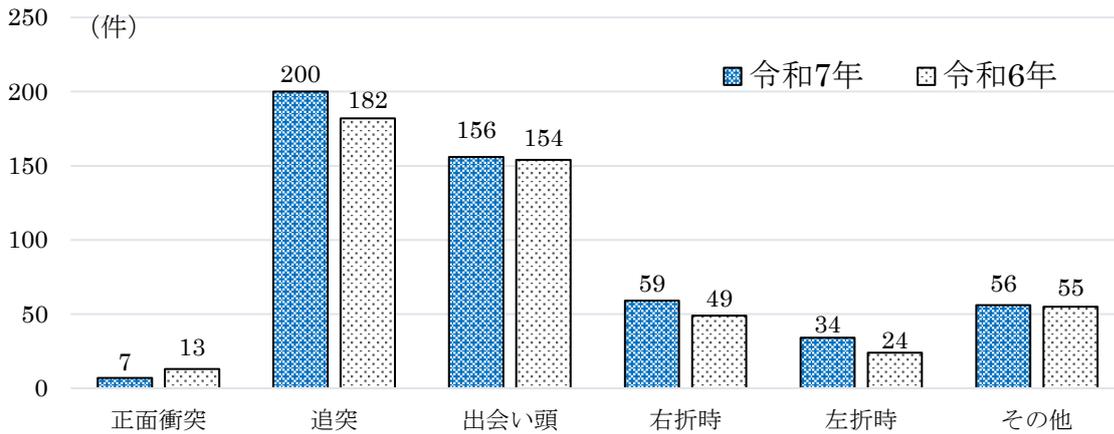
6 事故類型別発生状況

(1) 人対車両 (計 105 件)



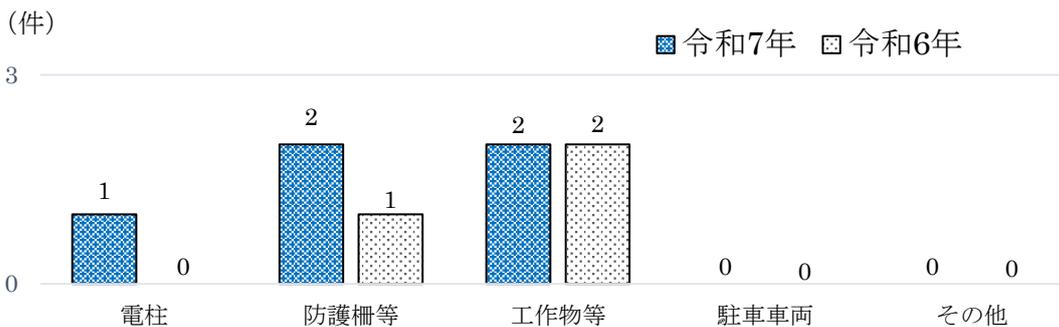
横断歩道横断中の歩行者は最も保護されるべき交通パートナーですが、人対車両事故 105 件中、横断歩道横断中の事故が 45 件（全事故の 7.2%）と最も多くなっています。右折または左折して横断歩道を通る際に歩行者の発見が遅れて接触する事故が多いので、交差点を右折又は左折する際は歩行者の有無に注意するよう指導してください。

(2) 車両相互 (計 512 件)



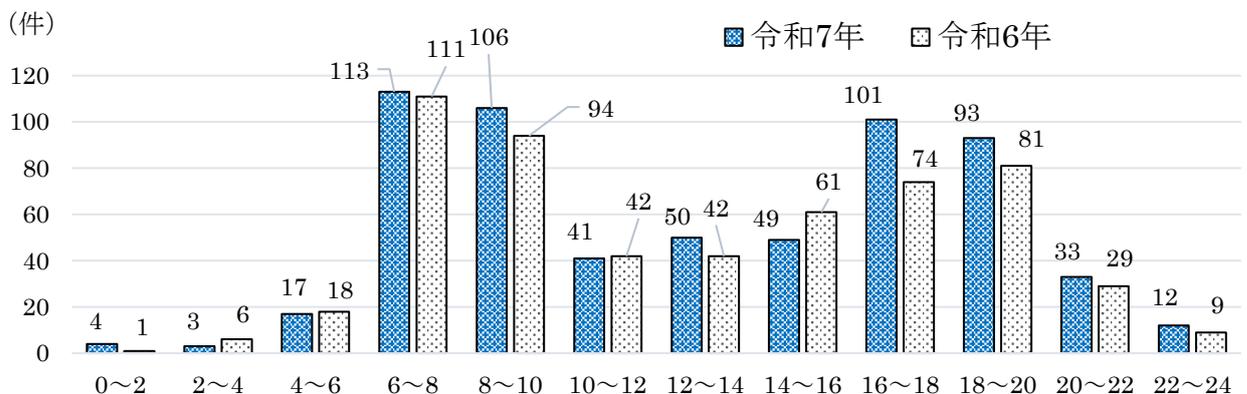
最も多い事故形態は追突（200 件、全事故の 32.2%、前年比+18 件）でした。次に多かったのは出会い頭（156 件、同 25.1%、同+2 件）です。出会い頭事故は追突事故に比べ重傷事故になりやすいので、信号機のない交差点では徐行または一時停止と安全確認を確実に実施してください。

(3) 車両単独 (5 件)



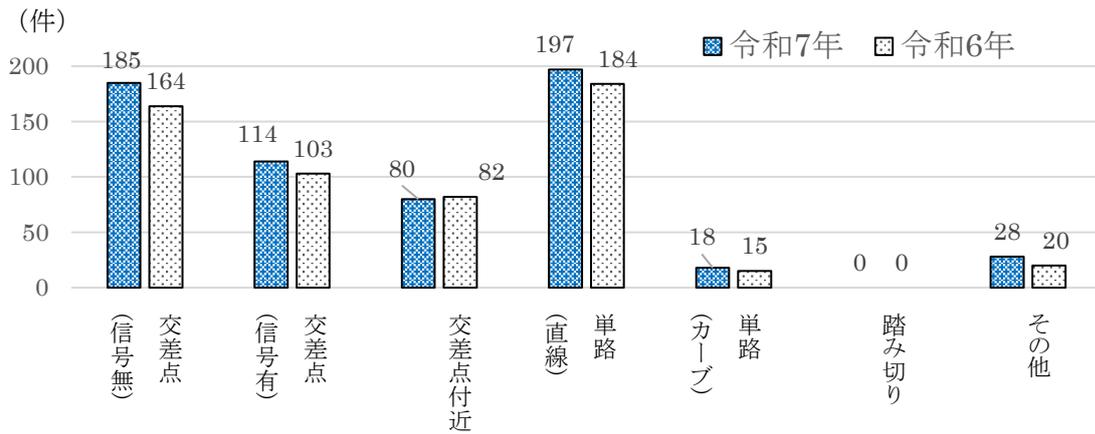
令和 7 年 6 月末現在の単独事故は 5 件です。

7 時間帯別発生状況



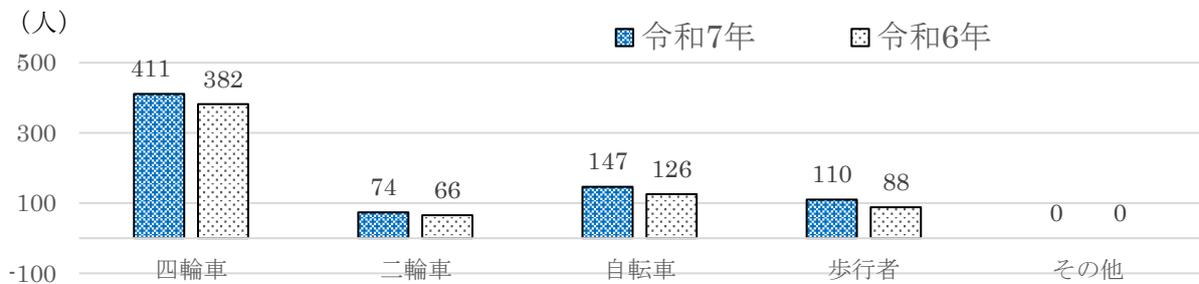
時間帯別で最も多かったのは、6時から8時までの時間帯で113件（全事故の18.2%、前年比+2件）でした。また、6時から10時までの時間帯に219件（同35.2%）、16時から20時までの時間帯に194件、（同31.2%）の事故が発生しており、朝夕の通勤時間帯の事故が多くなっています。

8 道路形状別発生状況



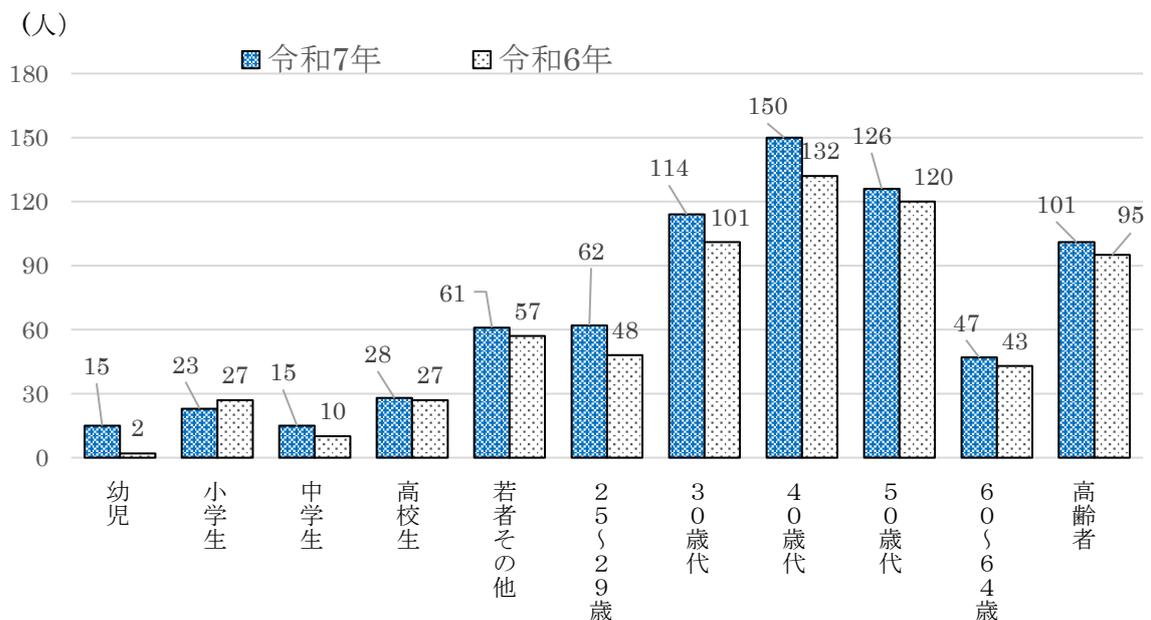
道路形状別では交差点（信号無）が185件と昨年同期と比べ21件増加しています。信号無と信号有の交差点事故の合計は299件で、全事故の48.1%を占めています。

9 死傷者の状態別発生状況



四輪車乗車中が最も多く411人（全事故の55.4%、前年比+29人）、次いで自転車の147人（同19.8%、同+21人）でした。

10 死傷者の年齢層別発生状況



死傷者が最も多いのは40歳代の150人（全事故の20.2%、前年比+18人）でした。